

安全の手引き

I 序言

当館の管轄であるカリフォルニア州中北部 49 カウンティ及びネバタ州には、サンフランシスコやラスベガスをはじめとする世界有数の観光都市があり、周辺には世界遺産となっているヨセミテ国立公園やレッドウッド国立・州立公園、有名なワイン産地であるナパ・バレーやソノマ、風光明媚な港町モントレイやカーメル等々、多くの観光スポットを有しています。また、カリフォルニア州は日本経済と結びつきが強く、特にサンフランシスコ・ベイエリア（サンフランシスコ、オークランド、サンノゼ等、サンフランシスコ湾の周辺地域）には多くの日系企業が進出しています。一方、教育分野でも充実した環境下にあり、世界的に有名なスタンフォード大学やカリフォルニア大学バークレー校等多数の大学が存在し、多くの日本人留学生の姿が見られます。このように魅力的な当地へは、毎年多くの邦人の方々が、様々な目的で訪れていますが、残念ながら滞在中に事件・事故に巻き込まれる方も少なくありません。

この「安全の手引き」は、当地に滞在中の方のみならず、これから当地への渡航を考えている方々へ、安全対策を考える上で一つの目安としていただくために作成いたしました。本手引きを通じて、「海外における安全」について再考して頂き、皆様お一人お一人がそれぞれの生活環境に合った安全対策を構築され、当地での滞在を安全かつ安心なものとするのを願っています。

【当館管轄地域】

○ カリフォルニア州（中北部・49 カウンティ）



○ ネバタ州（全域）



II 防犯の手引き

1 防犯の基本的な心構え

(1) 高い防犯意識の保持

日本は世界でも有数の治安の良い国ですので、日本の治安環境に慣れ親しんだ日本人にとって、海外における滞在では「事件・事故に巻き込まれやすい環境下」に身を置くことになります。海外で安全に滞在するためには、何よりも「自分の身は自分で守る」という高い自己防衛意識を持つことが大切です。

(2) 最新の治安情報の入手と防犯対策の構築

テレビや新聞、ラジオ、インターネット、当館ホームページ等を通じて、常に最新の治安情報の入手に努めてください。収集した情報を基に、危険とされるエリアや時間帯を避け、その地域に住む人々が反感を抱くような言動を止める等、適切な安全対策を構築することが重要です。

2 当地における最近の犯罪発生状況

(1) 当地の特色

カリフォルニア州サンフランシスコは、1960年代に発生したヒッピー文化の中心地と言われ、オークランド、バークレー、サンノゼ等サンフランシスコ湾を囲むベイエリアでは、今でも、自由な気風が尊重される地域となっています。人種も多様性に満ち、様々な団体や個人が、様々な主義・主張を訴える活動をしていますので、国際テロの標的となり得る社会的土壌を有していると言えます。また近年は、自動車の窓ガラスを破壊して車内の物品を窃取する、いわゆる「車上狙い」が多発しており、多くの邦人の方々が被害に遭っています。

一方、ネバダ州ラスベガスは、カジノやショーで知られる世界有数のナイトスポットであり、年間約4,000万人の観光客が訪れていますので、サンフランシスコ同様にテロの潜在的脅威が存在しています。ラスベガス市警が治安維持に力を入れていますが、空港やホテルのロビー等におけるすりや置き、ホテル客室における侵入強盗、レンタカー対象の車上ねらい、ひったくり等といった観光客対象の一般犯罪も多く発生しています。

(2) 統計から見た治安情勢 (資料「[在サンフランシスコ総領事館・主要都市犯罪発生状況](#)」)

2019年にFBIが発表した2018年中の犯罪統計によると、カリフォルニア州全体において、凶悪犯罪は減少傾向となっています。

しかし、地域別にみると、サンフランシスコ市では、いずれの犯罪も10万人あたりの発生件数は州の数値を大きく上回っており、窃盗犯罪が突出して高い数値にあります。特に同市では、観光客を狙ったスリや置き引きのほか、車上狙いの多発が社会問題となっており、警察による対策が取られているものの、抜本的な抑止には至っていない状況です。

サンノゼ市は人口100万人を超え、カリフォルニア州の中で、ロサンゼルス、サンディエゴに次いで人口第3位の大都市であり、在留邦人も多く比較的治安は良いとされていますが、日本と比較した場合、犯罪発生率は十分高い水準にあります。

ネバダ州ラスベガス主要地域においても、殺人や強姦等凶悪犯罪をはじめ犯罪発生件数は依然高い水準にあり、観光客がスリや置き引き、ホテルの客室狙い等窃盗被害に巻き込まれるケースも報告されています。

3 防犯のための具体的な注意事項

(1) 住居の選定方法

犯罪の発生には様々な要因がありますので、犯罪率が低いからといって、決してその地域の安全が保証されている訳ではありません。住居地を選定する際には、全て不動産会社まかせにすることなく、自分の生活環境に照らして、物件のセキュリティ設備をはじめ、その周辺や地域の治安状況、歴史や文化、街の雰囲気に至るまで情報を集約した上で決めることが大切です。

また、不動産物件を探す手段の一つに、インターネットの地域情報コミュニティサイトを利用する方も多くみえますが、中には、実在する物件と偽の連絡先を掲示して、連絡してきた入居希望者から言葉巧みにお金を詐取する手口も存在します。契約内容等に少しでも不審を感じたら徹底的に究明するように努めてください。

(2) 犯行形態別の防犯対策

ア 車上狙い

サンフランシスコ市内の観光ポイントで、「PREVENT A THEFT」「REMOVE VALUABLES/LOCK YOUR CAR」等の標識をよく目にしますが、このような

場所は「車上狙い」が多発しており、警察が重点的に警戒しているところです。近年、ベイエリアでは、車上狙いが多発し、多くの邦人の方々も被害に遭っています。

被害に遭わないためには、第一に「車内にモノを置かないこと」です。犯行は数秒で敢行されますので、短時間でも車両を離れる場合には、決して貴重品を含む物品を車内に放置しないようにしてください。特に「レンタカー」は、観光や短期出張の方が利用していることから、車内（トランクを含む）には旅行中の荷物が保管されている可能性が高いとみられて、ターゲットとなっています。

イ すり、置き引き

サンフランシスコ市内のケーブルカーや路面電車内や、ラスベガスのストリップ大通りを歩行中にも、すりや置き引きの被害が報告されています。特に、週末には多くの観光客により、車内や観光地が混雑しますので、荷物を身体の前で抱えるなど、貴重品はしっかりと身につけるようにしてください。大きなバッグ等、どうしても床に置かなければならない状況では、絶対に目を離さないようにしてください。

また、ファストフード店だけでなく、高級レストランの店内であっても被害は発生しています。店の雰囲気にとらわれることなく、常に荷物に対する警戒心を怠らないようにしてください。グループで食事中にイスの背もたれに掛けたバッグや、テーブルに置いた財布等を盗まれるケースが報告されていますので、荷物が友人の視界に入っているからと言って油断は禁物です。すりや置き引きは、年間を通じて発生していますが、サマーシーズンである7月から10月にかけては被害件数が増える傾向がありますので、特にご注意ください。

ウ けん銃等の持凶器使用犯罪

不運にも、けん銃やナイフ等の凶器を用いた犯罪に遭遇した場合には、犯人に抵抗することないように、まずはご自身の安全を第一に考えて行動してください。ひったくりの被害に遭った邦人が被害品を取り返そうと犯人を追いかけ、返り討ちに遭い負傷したり、金品要求を拒否したところ暴行を受け骨折した事件も発生しています。

エ 宿泊施設滞在時

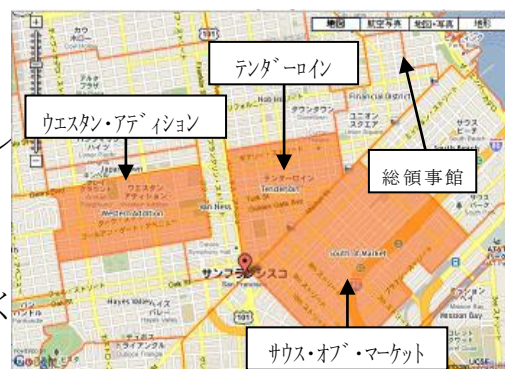
有名なホテルの室内であっても油断は禁物です。ドアの施錠とチェー

ンロックを確実にいき、ドアをロックされた場合は、必ずドアスコープで相手を確認してから開けるようにしましょう。深夜時間帯の訪問等、不審な場合には、ホテルのフロントに電話をする等の用心深さが必要です。特にラスベガスでは、ストリップ大通り沿いのカジノホテルであっても、不用意にドアを開け被害に遭ったケースの他、ホテル居室内に置いていた荷物から貴重品が盗まれた報告もありますので、貴重品の管理には十分ご注意ください。

(3) 注意を要する観光スポット

ア サンフランシスコ市及びその周辺

サンフランシスコ周辺では、フィッシャーマンズワープやゴールデンゲートブリッジ等の観光地を主として窃盗事件（車上狙い、スリなど）が多発している他、いわゆるナイトクラブ周辺でギャング間の抗争に起因する発砲事件や銃器使用の強盗等凶悪犯罪の発生もみられます。こうした犯罪は、裏通り等の人気の無い場所に限らず、過去にはバスや路面電車等公共交通機関内でも発生しています。観光スポットの中でも凶悪犯罪の発生が多い地区としては、ユニオン・スクエア南西に位置するテnderロイン（Tenderloin）地区、マーケット・ストリートの南部に位置し、美術館やオラクル・パーク（野球場）が所在するサウス・オブ・マーケット（South of Market, 通称ソーマ：SOMA）地区及びジャパントウン南部のウエスタン・アディション（Western Addition）地区等が挙げられます。



これらの地区では、これまでも多くの邦人が被害に遭っていますので、夜間の一人歩きは避ける様にしてください。

また、サンフランシスコ市の東側に位置するオークランド市は、全米でも有名な犯罪多発地域であり、邦人の強盗被害も発生しているので、上記の地域と同様、特に注意が必要です。

イ ラスベガス

ラスベガスの中心部、いわゆるストリップ大通り（Las Vegas Boulevard）は昼夜をおかず多くの観光客で賑わっていますが、日中でも

ひったくりや路上恐喝、ホテル内でもカジノやレストランにおけるすりや置き引き、客室の侵入強盗・窃盗等、観光客を狙った犯罪が多発しています。

また、多くのカジノや店が24時間営業となっており、大通りには深夜時間帯でも人が途絶えることはありませんが、路上強盗や売春、違法ドラッグを持ちかける犯罪者が出没しますので、トラブルに巻き込まれないよう十分な警戒心を持って行動することが必要です。

(4) 生活習慣の違い等に関する注意事項

ア 家庭内暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）

米国では、DVに関する法律が、日本以上に厳しく規定されています。DV事案に臨場した警察官は、現場の状況によりどちらか一方を拘束すると言われていています。これまでも、夫に対して物を投げたり、手を出した妻が拘束された事例もありますので、いかなる理由や状況であっても、相手に暴力をふるう行為は許されないことを認識する必要があります。

イ 子供との接し方

米国では、子供（18歳未満）に対する犯罪が社会問題となっており、子供は保護すべき対象として、法律等で手厚く保護されています。例えば、多少の暴力を伴うしつけ、父親が子供と入浴する行為、車内に子供を残したまま車両を離れる行為等は「児童虐待」「性的虐待」等と見なされ、当事者は逮捕され、刑事事件として訴追される可能性があります。日本の文化において問題がないと考えられていることが、当地では犯罪とみなされる場合があることから、特段の注意が必要です。

ウ 警察官の対応

米国では、警察官から何らかの犯罪に関与していると疑われた場合、はっきりと理由を告げられることなく、後ろ手錠を掛けられて拘束されることがあります。日本では考えられませんが、当地では警察官が安全に容疑者の身柄を確保するために、一般的な手段として使われています。例えば、交通違反を犯したことを認識していない運転手が、警察官の指示に従わず、自ら降車した場合、逃走や反撃のおそれがあると判断され拘束されるかもしれません。状況によっては、けん銃を向けられ、地面に伏せる体制をとらされた上で手錠を掛けられる可能性もあります。

誤って拘束されたとしても、当然、容疑が晴れば解放されます。この時、警察官から「RELEASE/DETENSION CERTIFICATE」と称する書類を交付されることがありますが、これは本件取扱いが逮捕・勾留措置ではないことを証明するためのものです。関係する警察署等には書類が記録として残りますが、犯罪歴とはなりません。今後の出入国で問題になることは一切ありませんのでご安心ください。

エ 高額な医療費

米国における医療費は極めて高額であり、日本では基本的に無料とされている救急車の利用でさえも、想像以上の額を請求されることがあります。緊急措置を受けた場合、医師に対する費用とは別に、病院から施設使用費等の請求もされることがあります。病院等を利用して医療機関から請求書が届いた場合には、内容を良く確認し、不明な点があれば当該医療機関に直接問い合わせるようにしてください。

海外へ渡航される方は、滞在地における交通事故や病気等、あらゆる事態を想定し、十分な補償を受けられる保険に加入することをお勧めします。

オ 薬物犯罪

カリフォルニア及びネバダ州においては、21歳以上の者が嗜好品としてのマリファナを1オンス以下（濃縮タイプはカリフォルニア州が8グラム、ネバダ州が1/8オンス以下）所持及び使用することが一定の条件の下、違法ではなくなりました。

しかしながら、米国の連邦法では、引き続きマリファナは幻覚作用のある禁止薬物として罰則規定が設けられています。

5 交通事情と事故対策

(1) 警察官による停止指示

車両運転中に警察官に停止を求められた場合、両手をハンドルの上に置き、そのまま乗車した状態で、警察官の指示に従ってください。慌ててポケットやバッグから免許証を取り出そうとすると、けん銃を取り出そうとしていると勘違いされる場合もあり大変危険です。また、勝手に車両から降りたりすると、逃走や抵抗しようとしていると判断され、身柄を拘束されることがありますので、警察官への対応には十分に注意してください。

(2) 飲酒運転

飲酒運転は、日本と同じく、当地でも厳しく処分されます。血中アルコール 0.08%（商業車を運転する場合 0.04%）以上で運転した場合、警察に逮捕・拘留され、罰金・奉仕活動が課せられ、更には飲酒に関するカウンセリングを受講しなければなりません。

飲酒に関連した交通事故は、損害賠償額も極めて高く、事故を起こした本人のみならず、本人の家族、そして被害者や被害者の家族にも深刻な影響を及ぼすことになることを改めて認識してください。

(3) 交通事故

当地において不運にも交通事故を起こしてしまった場合、事故の程度によっては、警察官が臨場せず、自動車保険会社への通報のみによって手続きが終了することがあります。しかし、事故後における事故当事者との交渉において色々な問題が発生する可能性がありますので、可能な限り、物件事故発生時の状況（相手の人定事項、車種、発生時間、破損箇所、破損程度、進行方向、通行車線、通行区分、停止線位置、衝突認識位置、衝突後車両停止位置、信号設置場所、信号サイクル、道路標識設置位置、車両相互の視認状況、各種動作確認、天候等）を記録しておくことが重要です。

6 テロ対策

当地治安機関は、当館管轄区域内（カリフォルニア州北中部及びネバタ州）において、テロ発生 of 具体的な情報は把握していないとの見解を示しています。しかし、2019年7月、当館管内カリフォルニア州ギルロイ市内で開催されていたガーリック・フェスティバルにおいて4人が死亡した銃乱射事件については、治安当局が国内テロとして捜査に乗り出した旨報じられ、2017年12月には、サンフランシスコ市内の観光地の一つであるピア39においてテロ攻撃を計画していたとして、米国人男性がFBIに逮捕される事案が発生しており、サンフランシスコやラスベガスの観光地等多くの人々が集まる場所では、テロのターゲットとして狙われる可能性があり十分な注意が必要です。また、米国の各地においても、ここ数年イスラム過激主義に影響を受けた者によるテロ事件が発生しています。例えば、2015年12月発生のカリフォルニア州サンバーナーディーノ市の地域福祉施設おける銃撃テロ事件（14名死亡、21名負傷）や2016年6月発生フロリダ州オーランド市のナイトクラブにお

ける銃撃テロ事件（50名死亡，53名負傷）が発生し，2017年10月にニューヨーク・マンハッタンにおいて発生したテロ事件では自動車を用いてテロを実行しており、身近な物がテロの道具として使用されるなど、引き続き米国は潜在的にテロの脅威にさらされている状況にあるといえます。

世界中の国々が様々なテロ対策を打ち出していますが，テロを完全に回避できるという対策はありません。日頃からテロに対する意識を高め，高い警戒心を持ち，関連情報に注意を払うなど，自分で出来る努力を積み重ねていくことが何より重要であることは間違いありません。

7 緊急時の連絡方法

(1) 当地の緊急連絡先

- ◆ 警察・消防・救急：911
- ◆ 在サンフランシスコ日本国総領事館：415-780-6000
- ※ 緊急事態における総領事館内設置の緊急対策本部（緊急時のみ）
：415-780-6018 ～ 6023
- ◆ ベイエリア医療関係等リスト

http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m10_03.html

(2) 総領事館への通報

各種犯罪被害等のご相談は，当館領事班邦人援護担当へご連絡ください。執務時間外や祝祭日における緊急時の対応として，上記の代表電話から，日本語によるオペレーターが24時間対応しています。

(3) 弁護士の紹介

当地治安機関に身柄拘束された方及び事件の被害に遭われた方等に対応するため，当館管轄区域内で活動されている弁護士事務所に関する情報を提供しておりますので，当館領事班邦人援護担当に問い合わせてください。

(4) 収監先からの連絡

逮捕・拘禁された場合，領事との面会や連絡を希望すればご家族との連絡支援や弁護士等の情報を提供いたしますので，領事館に対して通報を要請する旨を事件担当の治安機関又は拘禁施設に伝えてください。

(5) 在留届

皆様が海外旅行される際，基本的には現地の在外公館に皆様の渡航情報は入ってきません。在留届は，各種領事手続きに利用されるだけでなく，緊

急時には安否確認を行うための基礎データとして在外公館では活用しています。旅券法では、海外に3ヵ月以上滞在する場合は大使館・総領事館へ「在留届」を提出することが義務付けられていますので、ご家族のためにも外務省ホームページ「ORRネット (<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)」若しくは直接在外公館にお越しいただき、在留届を提出してください。

また、帰国、転居、家族構成の変更が発生した際には、内容の変更についても忘れずに変更届け又は在外公館へご連絡ください。

(6) たびレジ

「たびレジ」とは、海外旅行や海外出張される方が、旅行日程、滞在先、連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、緊急時の電話連絡などが受け取れるシステムです。短期滞在には、是非ご登録ください。(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

また、具体的な旅行予定はなくても、海外の安全情報を入手したいという方や、出張者や駐在員のために常に情報を把握したいという企業・団体向けに、メールアドレスと国・地域を登録するだけで、最新の海外安全情報や緊急一斉通報を受け取ることができる「たびレジ簡易登録」もあります。ただし、緊急時の電話連絡やお役立ち情報の提供はできませんので、具体的な旅行予定がある場合には、たびレジにご登録ください。

(7) 海外安全アプリ (スマートフォン向けの安全情報配信サービス)

海外安全アプリとは、スマートフォン向けの安全情報配信サービスです。スマートフォンのGPS機能を利用して、現在地及び周辺国・地域の海外安全情報を表示したり、任意の国・地域を「My旅行情報」機能から選択することで、その国・地域に対する海外安全情報が発出された場合にプッシュ通知(自動的)で受信することが可能となります。また、各国・地域の緊急連絡先を確認することができますので、海外にお住まいの方や海外旅行・出張中の方は、是非ご活用ください。

【ダウンロード先のURL】

http://www.anzen.mofa.go.jp/c_info/oshirase_kaian_app.html

Ⅲ 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

1 平素の準備と心構え (緊急事態に備えての確認事項)

(1) 旅券等

旅券の有効期間を常時確認しておいてください（有効期間が1年以内になれば切替が可能です）。旅券の最終ページの「緊急連絡先」は漏れなく記載してください。なお、米国ではグリーンカード（永住許可証）所持者以外の方は、原則として旅券の携帯が義務づけられています。

（２）現金等の保管

現金、貴金属、貯金通帳等の有価証券、クレジットカード等の貴重品類は旅券同様に直ぐ持ち出せるように保管しておいてください。

（３）自動車の整備等

自動車をお持ちの方は、常時整備しておくよう心がけて、燃料は十分入れておくようにしてください。車内には、懐中電灯、地図等を備えておくといいでしょう。自動車を保有していない方は、近くに住む自動車を持っている人と平素から連絡を取り、必要な場合には同乗できるよう相談しておおくことをお勧めします。

（４）携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、上記現金等に加えて次の携行品を備えておき、直ぐに持ち出せるようにしておいてください。

ア 衣類、着替え（長袖、長ズボン、麻、綿等吸湿性に富む素材を）

イ 履物（行動に便利で靴底の厚い頑丈なものを）

ウ 洗面用具（タオル、歯磨きセット、石けん等）

エ 非常用食料

暫くの間、自宅待機する場合を想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーターを家族全員が7日間程度生活できる量を準備しておいてください。これらの非常用食料を保管している自宅から他の場所へ避難する際には、この中からインスタント食品、缶詰類、粉ミルク、ミネラルウォーターを入れた水筒を携行するようにしてください。

オ 医薬品等

常備薬、常用薬、外傷薬、消毒用石鹸、衛生綿、包帯、絆創膏等

カ ラジオ

当地において有事の際に公共の放送局を受信できる電池仕様のもの（KCBS 740 AM及び106.9 FM等）

キ その他

懐中電灯，ライター，ロウソク，ナイフ，缶切り，栓抜き，紙製の食器，割り箸，固形燃料，簡単な炊事用具，ヘルメット

在サンフランシスコ総領事館・主要都市犯罪発生状況

都市(州)名	統計年	人口	凶悪犯罪 10万人あたりの発生件数	殺人 10万人あたりの発生件数	強姦 10万人あたりの発生件数	強盗 10万人あたりの発生件数	加重暴行 10万人あたりの発生件数	窃盗犯罪 10万人あたりの発生件数	侵入盗 10万人あたりの発生件数	非侵入盗 10万人あたりの発生件数	自動車盗 10万人あたりの発生件数	別添												
													増減(%)	増減(%)	増減(%)	増減(%)	増減(%)	増減(%)	増減(%)					
California	2018	39,557,045	176,982	1,739	4.4	15,505	39.2	54,326	137.3	105,412	266.5	941,618	2,380.4	416.2	621,775	1,571.8	155,211	392.4						
	2017	39,399,349	178,597	1,830	4.6	14,724	37.4	56,625	143.7	105,418	267.6	987,063	2,505.3	448.4	642,019	1,629.5	168,365	427.3						
			-0.9	-1.3	-5.0	-5.4	+5.3	+4.9	-4.4	*	-0.4	-4.6	-5.0	-7.2	-3.2	-3.5	-7.8	-8.2						
San Francisco	2018	889,282	6,144	46	5.2	354	39.8	3,165	355.9	2,579	290.0	49,214	5534.1	5,322	39,675	4461.5	4,217	474.2						
San Jose	2018	1,047,305	4,444	28	2.7	615	58.7	1,593	152.1	2,208	210.8	25,753	2459.0	4,539	13,510	1290.0	7,704	735.6						
Sacramento	2018	507,037	3,329	36	7.1	102	20.1	1,052	207.5	2,139	421.9	15,417	3040.6	2,751	9,783	1929.4	2,883	568.6						
Fresno	2018	531,818	2,953	32	6.0	170	32.0	909	170.9	1,842	346.4	17,787	3344.6	2,949	12,473	2345.4	2,365	444.7						
Oakland	2018	430,230	5,480	70	16.3	448	104.1	2,624	609.9	2,338	543.4	23,190	5390.1	2,394	15,725	3655.0	5,071	1178.7						
都市(州)名	統計年	人口	凶悪犯罪 10万人あたりの発生件数	殺人 10万人あたりの発生件数	強姦 10万人あたりの発生件数	強盗 10万人あたりの発生件数	加重暴行 10万人あたりの発生件数	窃盗犯罪 10万人あたりの発生件数	侵入盗 10万人あたりの発生件数	非侵入盗 10万人あたりの発生件数	自動車盗 10万人あたりの発生件数	別添												
Nevada	2018	3,034,392	16,420	541.1	6.7	2,329	76.8	3,862	127.3	10,027	330.4	73,985	2,438.2	17,743	44,338	1,461.2	11,904	392.3						
	2017	2,972,405	16,663	560.6	8.9	1,896	63.8	4,841	162.9	9,660	325.0	78,320	2,634.9	20,049	45,459	1,529.4	12,812	431.0						
			-1.5	-3.5	-24.1	-25.6	+22.8	+20.3	-21.9	+3.8	+1.7	-5.5	-7.5	-11.5	-2.5	-4.5	-7.1	-9.0						
Las Vegas MP	2018	1,644,390	9,949	605.0	120	7.3	1,610	97.9	163.6	5,529	336.2	46,673	2838.3	11,968	26,756	1627.1	7,949	483.4						
North Las Vegas	2018	246,951	2,386	966.2	33	13.4	150	60.7	179.4	1,760	712.7	5,202	2106.5	1,326	2,677	1084.0	1,199	485.5						
Reno	2018	252,341	1,636	648.3	6	2.4	174	69.0	120.1	1,153	456.9	6,053	2398.7	1,073	3,930	1557.4	1,050	416.1						
※Las Vegas MPIについてはラスベガス主要部(クラーク郡の一部を含む地域)																								
参考	統計年	人口※1	凶悪犯罪 ※2	殺人 10万人あたりの発生件数	強姦 10万人あたりの発生件数(強制性交等)	強盗 10万人あたりの発生件数	加重暴行 ※3	窃盗犯罪 10万人あたりの発生件数	侵入盗 10万人あたりの発生件数	非侵入盗 10万人あたりの発生件数	自動車盗 10万人あたりの発生件数	別添												
日本	2018	126,443,000	4,900	3.9	915	0.7	1,307	1.0	1,787	1.4	582,141	460.4	62,745	49.6	311,597	246.4	8,628	6.8						

※1 2018年10月現在
 ※2 日本の統計上では「放火」を含む(米国は含まない)
 ※3 米国の統計と一致する数値がないため記載せず